

信州大学教育学部附属長野小学校6年生への感想

〔児童の皆様へ〕

- 耕作放棄地の問題を解決することはかなり難しいことだと感じた。しかし、耕作放棄地を一から畑にしている、本当にすごいと思った。また、自給率0%の綿花を栽培することを選択したこともすごいと思った。綿花の利用方法を考え、販売まで行って、素晴らしいと感じた。
- 耕作放棄地の問題に着目し、実際にできることを探り、焼き畑を行うなど行動力が高いと感じた。綿花を使い人々に耕作放棄地や綿花に興味を持ってもらうようなプログラムをはじめ、目標を定めそれに向かって行動することはすごいことだと感じた。
- 小学生とは思えないくらいの行動力で本当に驚きました。綿花を作ったり、大学で学んだり、市場で販売したり、実践的な活動が多く素晴らしかったです。耕作放棄地を再利用することでたくさんの利点があることを知り、私も何か作ってみたいと思いました
- 用水路を辿る旅を通して、耕作放棄地を見つけ、自分達自身で耕作放棄地を活用したいといった思いを抱き、実践を展開している主体的な学びが実現していると感じました。使われなくなった畑で自給率が0%の綿花を育てることにやりがいを感じ、綿花の葉が虫に食べられてしまっても、自ら解決策を見つけ、実践している素晴らしい取り組みであると思いました。また、地元のイベントにおいて、耕作放棄地や綿花について知ってもらう活動をしていて、情報を発信し、地元の人々と共に課題の解決に向けて取り組みを推進することも大切であると思いました。そして、自分たちの活動がどのようにSDGsに貢献しているのか考え、持続可能な社会に向けて協働的な学びができていて素晴らしいと思いました。今後も、耕作放棄地利活用プロジェクトを通して、様々な学びを深め、課題の解決に向けて活動を続けてください。ありがとうございました。頑張ってください。
- 自分たちの疑問に思ったことを追求したり、自分たちができることを実際に体験したり行動に移していたのがとても素晴らしいと思いました。また、耕作をしていく中で、課題が出てきた時に自分たちで対策して、改善することができていたのが良かったと思いました。
- 「耕作放棄地」という言葉を今回の発表で初めて知りました。耕作放棄地を見つけて活用していく中で、日本での自給率が低いものを育てるということは、これからの日本にとって大切なのではないかなと思いました。
- 日常の些細な発見から発展させて、綿を育てようという考えになったことに驚きました。放置されている土地も、綿の自給率の低さも、日本の深刻な問題だと思うので、とても良い着眼点だと感じました。夏休み中も責任感を持って世話をしたり、繊維学部の先生に話を聞いたり、びんずる市で綿を売ったり、とても有意義な活動をしていると思いました。素敵な発表でした。
- 着目点がすごいなと思った。上記三つの学校は社会的にも議論されていて着目はしやすいと思う。ただ耕作放棄地は私が知る限りでは過熱に議論はされていない。ただ確かに日常に目を向けてみると耕作放棄地は沢山ある。この問題を議論しようとするセンス、レベルにとっても感激した。
- 活動において「やりがい」を大切にした点に驚きました。勝手に綿花は日本では育たないと思っていた

ので、とても興味深かったです。また、綿花を用いた商品の作成において、ぬいぐるみや綿飴風キーホルダーが、等身大の発想でとても和みました。多くの人に注目してもらえそうな商品を作りつつ、SDGsに帰結させていて、すごく合理的だと感じました。

- 耕作放棄地が知らないだけでたくさんあることを知ることが出来ました。さらに、皆さんの力で耕作放棄地がとてもきれいになっていて、畑になっていることにびっくりしました。自給率0%の綿花を育てたいという一心で、ヨトウムシの嫌いなものを巻いたり、夏休みに水やりをしていたり、繊維学部に行く行動力と責任感が素晴らしいと思いました。綿花の良さを見つけいろんなところに活用しているところが面白いなと思いました。SDGsに絡めて耕作放棄地について考えていくことで活動の意義も見出すことが出来ましたね。「仲間と助け合えばなんだってできるくらい力になる」という言葉が今回の活動を見て、その通りなのだと感じることが出来たとともに、耕作放棄地から綿花を作り活用した皆さんだからこそいえる言葉なのだと思いました。この活動をきっかけに、自給率が上がっていくとすごいなと思いました。なぜ綿花の自給率が国内で0%なのか気になりました。
- 昨年見させていただいた時は用水路をたどり耕作放棄地にみなさんが着目し始めたときでした。綿花についてももちろん存在は知っていましたが、どのように作るのか、どんな利用法があるのか、知らないことばかりで勉強になりました。一般の方にも魅力を伝えるためにイベントに参加したりするなど工夫が多く素敵だなと思いました。耕作放棄地の利用法によって持続可能な社会を目指せると思いました。仲間を信じる、協力し合う姿がとても良いですね！これからも頑張ってください。
- あれほど広大で荒れていた放棄地を畑にしたのがすごいなと思って発表を見せてもらいました。耕作放棄地で綿花を育てることが、害虫害獣の減少や不法投棄の減少など環境のためになり、まわりに伝えていく活動や災害時の対策にもなりうるというお話がありました。ひとつの活動がつながって広がっていく様子が素敵だなと思いました。発表ありがとうございました。
- 耕作放棄地に手を加え、綿花を育て上げたのはすごいですね。私は耕作放棄地も誰かの土地で、その持ち主がなんとかするべきだと人任せな考えをもっていたため、皆さんの活動報告を聞いて感動、一方で反省しました。仲間と助け合えばなんでもできる力になる、大変良い気づきですね。

〔教職員の皆様へ〕

- 耕作放棄地。自給率。SDGsとのつながりはもちろん、日本、長野県の切実な社会問題となっているところだと思います。大人が解決できていないこと、そして、ほぼ間違いなく皆さんの生きる未来にも（もしかしたらより深刻化した）問題として存在するのだろうと考えます。ここに思いをかけ、働きかけてきたことは、皆さんの今後の生き方にきっと直結していくのだろうなと思い、今年一年間の活動で終わりというものではないのだと感じました。人への発信を求め、人とのつながりを感じていったこともすごいなと思いました。社会問題を解決していくのにも、やはりそこに行きつくのではないかと考えさせられました。いつも近くで感じながら、学ばせてもらっています。ありがとうございました。
- 第一に、「やりがい大切に」して何を育てようか決めた、ということに感動し、素晴らしいなと思いました。そして、今年プロジェクトは、前年の米作りで用水路を辿って15キロ歩いた時の気付きから

繋がっているということを知り、子どもたちの問題意識と、それに取り組もうとする熱意をより感じました。たくさん考え、学び、やってみて、また考え学ぶ、そんな素敵な流れが自然とできていたのではないかなと思いました。クラスみんなのチームワークや、信頼関係を感じました。

- 耕作放棄地から畑で育てるものを考える流れが高学年の学習としてとても理にかなっていると感じました。自分は低学年で有機栽培の畑をやっているので、なおさら学習の価値の明確さに驚きました。綿花に結びつき、育てる学びへとつながるので、教科横断のやりやすさにもつながるのではと感じました。